

会 議 議 事 録

1 会議名	令和5年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会
2 開催日時	令和5年7月13日（木）午後1時30分から午後3時10分まで
3 開催場所	長岡造形大学 大学院棟3階 第2会議室
4 出席者名	<p>（委員）中村委員長 水澤委員 草間委員 並木委員</p> <p>（説明のために出席した関係者）</p> <p>公立大学法人長岡造形大学 佐々木理事長 公立大学法人長岡造形大学 馬場学長 公立大学法人長岡造形大学 河村副理事長 公立大学法人長岡造形大学 久島事務局長 公立大学法人長岡造形大学 安達事務局次長 公立大学法人長岡造形大学 白崎経営企画室長 公立大学法人長岡造形大学 佐藤財務課長</p> <p>（事務局）長岡市地方創生推進部 長谷川部長 長岡市政策企画課 目黒課長 長岡市政策企画課 早川課長補佐 長岡市政策企画課 相川係長 長岡市政策企画課 浅野主任</p>
5 欠席者名	榎委員
6 議事	<p>（1）令和4年度業務実績報告について</p> <p>（2）役員報酬規程の改正について</p>
7 審議結果の概要	議事（1）は、大学と委員の間で質疑応答を行い、今後の評価書づくりに反映させていくこととなった。議事（2）は承認された。
8 審議の内容	

事務局・政策企画課課長補佐	<p>本日は、お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>これより、令和5年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会を開催いたします。はじめに長谷川地方創生推進部長よりご挨拶申し上げます。</p>
事務局・地方創生推進部長	<p>(部長挨拶)</p>
事務局・政策企画課課長補佐	<p>本日の評価委員会は、委員5名のうち4名が出席されておりますので、長岡市公立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定を満たしていることをご報告いたします。なお、このたびの評価委員会は、長岡造形大学の佐々木理事長、馬場学長、河村副理事長、久島事務局長、安達事務局次長ほか事務局職員からご出席いただいております。</p> <p>それでは、佐々木理事長から一言ご挨拶をお願いします。</p>
理事長	<p>(佐々木理事長挨拶)</p>
事務局・政策企画課課長補佐	<p>佐々木理事長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、議事の進行を中村委員長にお願いしたいと思います。中村委員長、よろしく願いいたします。</p>
委員長	<p>それでは、進行を務めさせていただきます。</p> <p>議事を進める前に、今回の評価委員会の議事録署名人を決めたいと思います。草間委員と並木委員のお二人にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。</p> <p>(草間委員、並木委員 了解)</p> <p>それでは議事に入りたいと思います。今日の議事は2件です。</p> <p>1件目は、令和4年度業務実績報告についてです。大学から自己評価の説明をしてもらい、それについて委員から質問とご意見を伺います。財務状況については参考情報としてご説明いただければと思います。</p> <p>2件目は、役員等報酬規程の改正について事務局より説明してもらい、それについて委員からご意見を伺います。</p>

<p>経営企画室長</p>	<p>では、1件目の令和4年度業務実績報告についてです。 それでは、大学側から業務実績報告について、説明をお願いします。</p> <p>(資料1により説明)</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>全体的なことに関して、委員の皆さんで質問や意見などありましたら、お願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>5ページの「1 業務実績の全体概要」中「(1) 教育に関する取組」2つ目、機能性と意匠性を兼ね備えた教室・アトリエ空間を整備した、また什器は優れたデザインのものに入れ替えたということですが、造形大学ですから元々デザイン性のあるものを活用されていたのではないかと思います。どのように変わったのかという点についてお聞かせください。</p>
<p>学長</p>	<p>以前は講義形式の授業が多く、固定化された大きな机が必要でしたが、現在は低学年からディスカッションを行うことが多いため、空間をフレキシブルに活用できるものに入れ替えました。</p> <p>また、作品制作に関しても、作成データをプロトタイピングルームへ持ち込み、そのまま作品を作るという授業が多くなってきてスピード感が求められています。それに対応できるように設備整備が進んでいます。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員の皆様、ほかに意見はございますか。</p>
<p>委員</p>	<p>全体的なところについては、映像を用いての説明もありましたので、非常に素晴らしい取組をされていると感じました。</p>
<p>委員長</p>	<p>令和4年度は学科再編、新たなカリキュラム開始に向け準備されてきたと思います。デザイン学科が視覚デザインとプロダクトデザインを一つの領域として、またテクノロジーを打ち出しているところが特徴に思えます。令和5年度が始まり、学科再編からの一連の動きがねらいどおりに進んでいるかどうかという点についてお聞かせください。</p>
<p>学長</p>	<p>昨今、社会がボーダレス化してきてデザインの分野が拡大し、それ</p>

	<p>に伴い融合が進んできています。それに対応できる人材を育成するために二つの学科を融合させました。また、テクノロジーが基本的な核になるということもはっきりしていましたので、これを中核に据えて融合的なデザイン教育とするということで統合しました。</p> <p>現在はスタート段階ですので、組織上、分かれていたものが一つになるということでの課題はありますが、順調に進んでおります。</p> <p>今年度入学生の様子としては、過去3年間コロナ渦で育ってきた学生にとっては、新しく変わるということにあまり抵抗がないように見受けられます。また、本学が新しい展開をするということに対して興味を持って志望理由として挙げてくる学生もいました。</p>
委員長	<p>視覚デザインとプロダクトデザインが一緒になって、テクノロジーという媒体のもとで総合化していくというイメージがすごく夢のあることだと思うので、ぜひ引き続き進めていただきたいと思います。</p> <p>また、大学全体の学科構成としてデザイン学科の学生数が多いですが、それぞれの学科のお互いの関係性はどのようにお考えかという点についてお聞かせください。</p>
学長	<p>学科ごとに学生数に差はありますが、これまでの本学のプロセスの中でこの学生数が指導上一番適切な人数ということと社会的なニーズにより決定したものです。</p> <p>また、本学は1学部というところは工夫しておりまして、学部全体の共通の科目を持てるため、基本的な造形力を養うような必須授業を学科関係なく行っています。そして各プロジェクトにおいても、アート支軸を置いたもの、建築環境に支軸を置いたものと様々ありますが専門の学生だけでなく他学科の学生、職員、地域で行うことでいろいろな課題、問題を考えるということを実施しております。</p> <p>そのため、学科によって学生数に差があることは問題ないと思っています。</p>
委員長	<p>個別の領域に関して、委員の皆さんで質問や意見などありましたらお願いします。</p>
委員	<p>9ページの通番7、志願倍率が5.38倍という点です。入学志願者の維持は、経営の安定、収入確保のため、また良い学生を幅広く集めるために大事な指標だと思います。今回、志願倍率の確保に向けてオープンキャンパスを対面とオンライン両方をハイブリットで実施され、</p>

	<p>そうした活動が志願倍率やニーズに繋がったということは学校全体として評価すべき点だと感じました。</p> <p>また、18ページ通番②、学生の授業内容満足度が平均4.54となっています。コロナ渦でなかなか学校に通えなかったり、オンラインになったりという状況があった中で、対面とオンラインを併用してカウンセリングを実施された取組などが学生から評価されての点数だと思います。</p> <p>志願倍率と学生の授業内容満足度は、大学の皆様が積極的に取り組まれてきたことの評価だと思うので、本当に素晴らしいと思います。</p> <p>また、学科、カリキュラムの再編について、実際にどのように進んでいるのかお聞かせいただきたいと思っていましたが、先の質問の回答により、違和感なく、学校全体としてスムーズに取り組まれているということをお聞きできました。</p> <p>次に17ページの通番37、ポートフォリオ作成講座について、前年度の倍の人数が受講されています。こうした取組が就職や学内での意識に良い影響になっているかと思しますので、詳しくお聞かせください。</p>
学長	<p>まず、カリキュラムの軸については変わっておらず、基礎力をしっかりつけるということは本学のアピールポイントです。これを先輩が直接後輩に、また母校の先生や保護者に伝える、またオープンキャンパスで教育方針を含め丁寧に説明をすることで入学生が安心して入学してくるという流れができてきています。</p> <p>次にポートフォリオについては、社会の受入側の変化に応じて、常に新しく更新していかなければいけないもので、本学の教員が熱心に取り組んでいる結果が就職率や新たな就職先に繋がっています。</p>
副理事長	<p>昨年度で成果が上がった点としては、企業の現場で働く本学の卒業生から、企業が求めている人材や能力という観点で学生に指導してもらったことです。新しい価値を生み出す際のデザインの役割が非常に見直されているので、当学の特色を生かしながらこれから社会が求めている人材に繋がるような作成方法を指導しました。</p>
委員長	<p>委員の皆様、ほかに意見はございますか。</p>
委員	<p>15ページの通番29、コロナ渦の状況でカウンセラー等が連携して積極的に学生を支援したことが、学生のモチベーションを下げるこ</p>

<p>学長</p>	<p>となく、また就職率の維持にも繋がっているものと感じ、大学の皆様の努力に敬意を表します。</p> <p>また、コロナ渦により、全国的に大学がリモート学習になったり、保護者の経済状況が非常に悪化したりという状況があったかと思いますが、今後さらに学生へどのようなフォローをすべきとお考えかという点についてお聞かせください。</p> <p>これは社会全体の問題としてあると思います。</p> <p>本学では、コロナ渦になり、心身の状態により休学する学生もいましたが、自分の進路を再考するために休学するという前向きな休学をする学生もおりました。そういう動きを3年間見てきて、今後、自分の人生をどのように考えるかということに資する教育の場面を作らなければいけないと思います。キャリアをただ就職のための準備とするのではなく自分が社会に出た後にどのような人生を送るか、どのようなマッチングがあるのかということをも早めに知ってほしいということで大学全体で動いています。</p> <p>ただやはり、カウンセリングを待つ学生も非常に増えていましたので、今後も丁寧に進めていく必要があると思います。</p>
<p>副理事長</p>	<p>カウンセリングについては、オンラインの方が相談しやすいという意見もあり、非常に活用されています。</p> <p>またコロナ渦の最盛期では、学生がアルバイトができないという状況がありまして、経済的に困窮する学生の比率が非常に増えました。その中で大学としては、大学の中で学生に働く場を提供できないかと考えました。以前から実施していたオープンキャンパスの補助、また図書館事務についても学生アルバイトが行っています。学生の経済的支援もしながら学生からは自らの大学の魅力づくりに関わってもらおうという取組をしております、それは成果があったと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今の事例は非常におもしろく、良い取組だと思います。</p> <p>学生を一人前の大人としてその共同体の中に迎え入れる。学生は仕事として大学に携わった思い出が1つでもあれば、楽しいことがあった、また長岡に戻ってこようとか、結びつきも非常に強くなりますね。</p> <p>通常のカウンセリングの他、学生の個人的な思いやアイデアを具体的に交流させてモチベーションを上げる、参加意欲を引き上げるような方向でもカウンセリングそのものが生きてくると良いと思います。</p>

委員長	<p>それでは次に、議事ではありませんが、参考まで、令和4年度決算の概要について大学側から説明をお願いします。</p>
財務課長	<p>(説明)</p>
委員長	<p>いまほどの説明について、ご質問がありましたら、お願いします。</p> <p>(質問・意見なし)</p>
委員長	<p>ほかに質問がなければ、議事2件目、役員等報酬規程の改正についてに移ります。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局・政策企画課長	<p>(資料2を基に説明)</p>
委員長	<p>説明ありがとうございます。</p> <p>委員の皆様からご意見がありましたらお願いします。</p> <p>(意見なし)</p>
委員長	<p>それでは意見等ないようですので、本日予定していた議事は以上となります。</p> <p>進行にご協力いただき、ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。</p>
事務局・政策企画課課長補佐	<p>中村委員長ありがとうございました。</p> <p>それでは、これにて、「令和5年度第1回長岡市公立大学法人評価委員会」を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>

上記議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名する。

委 員

委 員

9 会議資料

- 次第・出席者名簿
- 資料1 令和4年度業務実績報告書
- 資料2-1 公立大学法人長岡造形大学の役員報酬及び職員給与の支給基準に関する届出書（変更）（令和5年3月31日付届出）
- 資料2-2 公立大学法人長岡造形大学の役員報酬及び職員給与の支給基準に関する届出書（変更）（令和5年5月30日付届出）
- 資料2-3 公立大学法人長岡造形大学役員報酬規程